

ユズの系統選抜に関する研究

第1報 自然弱毒CTV保毒系統における特性

谷本佑・矢野臣祐・又川浩司・小原敬弘・樋口洋造・田中満稔

Study on Selected Strains of Yuzu (*Citrus junos* Sieb. ex Tanaka)
I. Characteristics of Yuzu Strains Naturally
Infected with Mild Strains of Citrus Tristeza Virus

Yuu TANIMOTO, Shinsuke YANO, Koji MATAGAWA, Norihiro OHARA,
Yozo HIGUCHI and Mitsutoshi TANAKA

要 約

県内で栽培されていたユズから、弱毒カンキツトリステザウイルス（以下 CTV）を自然保毒し、果実外観が優良な系統である「高知果試選抜1～5号」（以下、「1～5号」）を選抜し、複製樹およびウイルスフリー樹を育成して樹体および果実特性を調査した。

1. 「1号」の樹勢はやや弱く、樹の生長は緩慢であった。累積収量は最も少なく、果実は他系統より小玉傾向であった。一方、ステムピッチング（以下 SP）発生度はやや低く、凸型こはん様症の発生も少ない傾向であった。
2. 「2号」の樹勢と樹の生長は中位で、累積収量はやや少なかった。SP 発生度は低く推移し、凸型こはん様症の発生も少ない傾向であった。
3. 「3号」の樹勢は強く、樹の生長は中位で累積収量は多かった。SP 発生度は低く、凸型こはん様症の発生も少ない傾向であった。
4. 「4号」の樹勢と樹の生長は中位であった。強い SP の発生が定植9年目に認められ、凸型こはん様症の発生は多い傾向であった。
5. 「5号」の樹勢は強く、樹の生長も早かった。果実は大きく、累積収量は多かったが、強い SP の発生が定植9年目に認められた。
6. 以上より、選抜5系統の中では「3号」が最も優良な系統で、次いで「2号」と考えられた。

キーワード：ユズ、カンキツトリステザウイルス、こはん様症、ステムピッチング、干渉効果